

# アーチルニュース ちえなっぴ

発行元：仙台市発達相談支援センター 〒981-3133 住所 仙台市泉区泉中央2丁目24-1

TEL：022-375-0110 Fax:022-375-0142 e-mail:fuk005410@city.sendai.jp

<http://www.city.sendai.jp/kenkou/hattatsu/gaiyou>

年末、うれしい報告がありました。

アーチルで支援していた方の就職が決まり、ご本人もご家族も、そして、支援していた自閉症児者相談センターはじめ支援関係者が、「ヤッター！」と、皆で喜びを共有しました。

アーチルが開設してから、これまでどこの相談機関にもつながっていなかった「アスペルガー症候群」や「高機能自閉症」の方々の相談が急増しました。特に、成人期に初めてアーチルの相談につながり、発達障害のことを知ったご本人たちは、それまでの人生～人間関係や社会体験～で、傷つき、自信を失い、閉じこもる等々、社会の中で孤立感を強めてきた方々が少なくありません。

アーチルでは、個々の相談に対応しながら、同じ仲間との出会いやご家族の方々の集いを実施してきました。さらに、地域での相談や支援を行う自閉症児者相談センターや、3か所の地域活動推進センターを整備し、これらの成人期の発達障害者の方々に対して、仲間や理解者や支援者を増やしてきました。

先ほどの就職が決まった方へも、支援者はご本人やご家族に寄り添いながら、その方の人生を自ら再スタートする、そんなお手伝いをさせていただきました。

このような中で、平成22年度アーチル療育セミナーは、「本人たちが自ら人生を切り拓いていくために～成人期の発達障害者が求めている支援と視点～」と題して、これら成人期の発達障害者、ご本人と支援者からのメッセージと、新潟県はまぐみ小児療育センター所長の東條恵とうじょうめぐみ氏の講演を予定しております。

発達障害者の方々は、仲間や理解者・支援者につながり、支えられながら、自ら一步を踏み出してきました。さらに、今度は、ご本人自らがその経験を支える側で生かし、役立てたいと考えています。顔を上げ、前を向き、自分の人生を歩み出した、ご本人たちの「思い」をぜひ聞きに来てください。

所長 佐藤 幸子





# アーチルでの9年間の相談支援・市民との協働した取組みを振り返る

アーチルは今年開設10年目を迎えます。そこで、これまでアーチルが行った相談支援について、乳幼児・学齢児・成人の各ライフステージごとに振り返るとともに、市民と協働してきた今までの取組みについてまとめてみました。

## 9年間の相談支援の振り返りから

### 乳幼児期の相談から ～本人・保護者の声から～

乳幼児期の相談は、「この子の育ちは?」「じゃあ、どうすればいいの?」という保護者の問いかけから始まります。どのような育ちのつますきなのか、どんな育児の工夫ができそうか、相談や初期療育グループで保護者と一緒に考えてきました。初めは不安で一杯な保護者も、先輩保護者や同じ悩みを持つ仲間と出会う中で、次の一步を踏み出す勇気が少しずつ生まれてきます。アーチルが開所して9年、いつも変わらず真剣な親子の姿があります。

まだやらなければならないことや課題はつきませんが、相談に来る子どもと保護者の声に耳を傾けながら関わる人たちとネットワークを組み、必要なことを一つ一つ形にしていきたいと思えます。

### 学齢期の子どもの成長を支える ～家庭・学校・地域の連携～

学齢期になると、他者との違いを感じ、悩みながら過ごす本人を支えることが、日々の生活の場に求められます。本人のニーズを汲み取り、家庭や学校を含めた関係機関が共通の方針で支援を展開できるよう、コーディネートしています。

特別支援教育の本格実施から4年がたち、小中学校における支援体制づくりが進められてきています。しかし、年齢が上がるにつれ、本人の行動に対する評価が変わったり、対応が一貫しなかったりすることで、自信の喪失や、不登校・ひきこもりなどの二次障害につながることも少なくない現状があります。

誰もが「できる」自分に気づき、人を信頼して成長していけるような支援システムの構築を目指し、「教育との連携・協働」を推進しています。

### 成人期の相談から ～本人主体 自分らしく生き生きと～

18歳以後、自立を目指していく中で、人生のさまざまな問題に直面していきます。社会に踏み出すことから始まり、就労、結婚、家庭生活、親亡き後の生活など、課題は多岐にわたります。自分の人生に誇りや充実感を持ち、より主体的に生活できるよう後押しをしています。既存の福祉サービスにとどまらず、オーダーメイドの支援やネットワークづくりを心がけています。社会はまだまだ厳しく、傷つき、自信を失っている方が大勢います。本人たちの生活の中心の場（高校、大学、職場や就労関係機関、施設など）が、それぞれ組織として支援の力をつけていけるよう、関係機関との連携・協働に力を入れています。また、発達障害の方々への資源整備や保護者支援事業も進めているところです。

本人を取り巻く社会こそが意識改革をしていく必要性を感じつつ、障害の有無にかかわらず、誰もが認められ、社会の一員として力を発揮できることを目指し、業務を進めています。

## 市民と協働してきた取組みについて

### 本人と家族の願いを実現するために ～本人と家族を真ん中において～

発達障害のある本人と家族が地域でその人らしく暮らすため、市民や関係職員等と一緒に考えることを目的に、これまで市民を対象とした療育セミナーを30回、関係職員を対象とする特別講座や基礎講座を95回（参加者：延17,221人）実施してきました。

アーチルでは、療育セミナーや基礎講座等で、できるかぎり本人や家族からの発信の機会をつくり、「自分たちはどのような生活を送りたいのか」「そのためにどのような支援を求めているのか」を、自らの言葉で語っていただきました。

これからも、本人と家族が「自分自身の人生として生きる」ことができるよう、本人と家族を中心に置いた相談支援体制のあり方について、発信し続けていきます。

### 足りないサービスは創っていこう！

～発達相談支援センター連絡会・発達障害者支援センター連絡協議会～

平成17年4月に「発達障害者支援法」が施行され、発達障害児者も支援の対象となりましたが、彼らの障害特性に対応できる福祉サービスは極めて少なく、地域で安心して生活するためのサービスや支援体制の整備が急務でした。

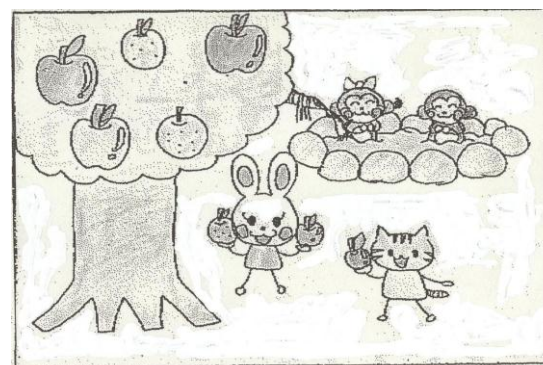
アーチルでは、保護者や関係職員を委員とする連絡会等で、地域生活支援や自立支援システム、ケアホーム等の生活の場、相談支援のあり方等について検討し、提言書や報告書としてまとめてきました。中・長期的な視点に立って、「足りないサービスは創り出す」という発想を大切にしながら、新たな社会資源の整備に向けて取り組んでいます。

地域での相談支援のための「自閉症児者相談センター」や、地域での日中活動の場である「地域活動推進センター」、保護者自身のグループ活動支援「母親の部屋『まるん』」、行動障害等の予防のための「自立支援事業」、一貫した相談支援を繋ぐ「my サポートファイル『アイル』」などです。

社会資源やネットワークの整備はまだ途上にあります。これからも、保育所・学校・通所施設等の関係機関と連携・協働しながら、本人と家族が、地域のなかで「当たり前」に生活できる仕組みづくりを続けていきます。



西山佳佑さん 画



O. Yさん 画



佐々木唯さん 画





「アーチル」とは「アーチ (arch: 橋)」と「パル (pal: 仲間)」とをか  
けたもので、センターが障害者と市民の「架け橋」になるようにとの願いを込  
め、市民公募によってつけていただいた愛称です。このコーナー「かけはし」  
は、読者の皆さんとアーチルが双方向で情報交換できるよう、皆さんや職員か  
らのメッセージなどを掲載していきたいと思えます。



## いずみライオンズクラブ様から、電子ピアノとハンド ベルをご寄贈していただきました

平成22年12月8日、いずみライオンズクラブ様から、電子ピアノ（2台）とハンドベル（2ケース）を寄贈していただきました。

アーチル内で行われた寄贈式には、いずみライオンズクラブ様から狩野会長、板橋幹事にお越しいただき、狩野会長からアーチルの佐藤所長に目録が手渡されました。

さっそく、アーチルでの療育活動などで大事に利用させていただきます。大変ありがとうございました。



### 平成 22年度「アーチル特別講座」を開催 しました！

平成 22年 10月9日（土）13:30 から「泉  
区役所本庁舎職員研修所大研修室」にて、開催し  
ました。

当日は、第一部として「ずり落ちなど不適切な  
座位姿勢の原因とその対応策」のテーマでぶつう  
のくらし研究所所長の吉川和徳氏の講演を行い、  
第二部では、吉川氏をコーディネーターとし、保  
護者の伊藤明子氏、宮城県介護研修センターの大  
場薫氏、仙台市障害者更生相談所の後藤美枝氏を  
お迎えして、事例紹介を行いました。

また、福祉用具の展示ブースを設けて、用具の  
実演や利用体験も行いました。

### 「アーチル療育セミナー」を開催します。

新潟県はまぐみ小児療育センター所長・東條 恵 氏やアスペル  
ルが-症候群の当事者等を迎えて講演を行い、アスペルルが-症  
候群の成人期に必要な支援について考えます。

日 時：平成 23年 2月 20日（日）

時 間：13:30～16:30（開場 13:00）

場 所：仙台市役所本庁舎 8階ホール

テーマ：本人たちが自ら人生を切り拓いていくために

### 編集後記

アーチルは今年開設 10年目を迎え、この秋には  
「(仮称) 南部発達相談支援センター」が開設する  
予定です。次号ではその施設紹介や開設までのスケ  
ジュール等についてお伝えします。

(地域ケア係 渡邊)